

情報連絡員報告・7月分

前月に続き、製造業の「売上高」と「収益状況」が大幅に悪化

<東京都中央会>

7月の情報連絡員報告によると、製造業の売上高と収益状況DI（前年同月比）値が前月に続き、大幅（約10ポイント）に悪化した。対照的に非製造業の売上高は好転、業界の景況は大幅（約10ポイント）に好転した。「業界の声」からは『プラスチック原材料の価格上昇が収益を圧迫』、『原材料の大幅値上げによる収益率の低下』等、悪化する収益状況についての報告がよせられた。

製造業64人、非製造業86人、計150人の集計

業界の声

特記事項欄より

「繊維・同製品」

- ・今月は梅雨空が続き、日照時間も記録的に短く、帽子販売は完敗。組合員は元気がない。（帽子製造業）

「印刷」

- ・今月より主要製紙メーカーが原材料価格の高騰を主な理由として、印刷用紙の10%以上の値上げをうちだし、印刷会社はその対応に苦慮している。（印刷業）

「化学・ゴム」

- ・原油値上りによるプラスチック原材料の価格上昇が収益を圧迫。大手企業の海外生産が増えて、少量の国内生産品は厳しい条件をつけられて、価格転嫁は認められない現状。（プラスチック製造業）

「鉄鋼・金属」

- ・ステンレス・アルミ等の原材料の大幅値上げによる収益率の低下が続いている。また、長引く梅雨の影響で夏場品（網戸）が不調。（建築用金属製品製造業）

「一般機器」

- ・資材・原材料は一時期ほどではないが、高止まりの様子。例年この時期は動きが鈍いが、著しい変化はない。後半にむけては企業毎にバラツキがあり、不透明な状況。夏場以降の金利と経済動向に注目。（配電盤機器製造業）

「その他製造業」

- ・稼働率が上りはじめ、労務の確保と資金繰りが悪化してきている。受注単価は横ばいから上向きに動きつつあるが、鈍い。8月からのピークを迎え、

労務確保のための資金確保が企業体力との勝負になる。(ガス圧接業)

「小売業」

・石油関連価格の値上り、特に4大合成樹脂の値上りが著しい。その他の樹脂についても値上りの波が押し寄せて来ており、対応に苦慮している。

(包装材料小売業)

・7月は日照不足の影響で、きゅうり・なす・ネギ・キャベツ・ほうれん草・小松菜が異常に高騰した。

(野菜・果実小売業)

・デジタル機器の販売数は伸びたものの、販売価格低下の傾向は続いている。定期的に販売主力商品となるエアコン・冷蔵庫の販売不振が響き、売上高が大きく前年を割った。(電気機械器具小売業)

<要望事項欄より>

* 原材料等の上昇傾向を一日も早く、くい止めてほしい。(帆布製品製造業)

* 大手豆腐メーカー間の供給過剰、過当競争によって経営が圧迫されている。生産調整ができないものか。

(豆腐小売業)

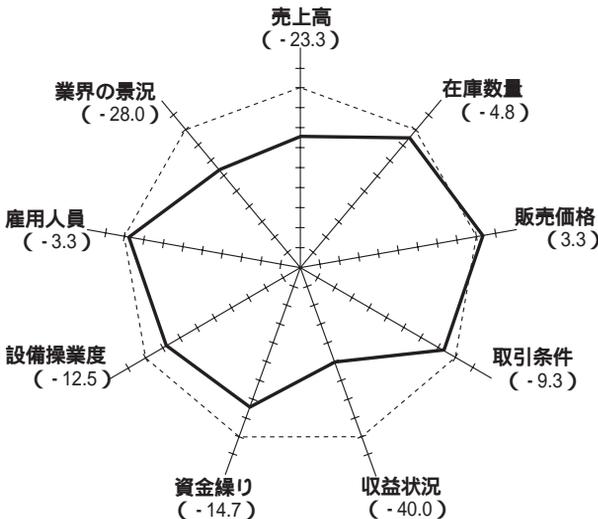
* 回収業者が生活できる価格で、しかも国内で資源が循環できるよう、再生資源ユーザー(製造者)の経営努力と行政の適切な指導をお願いしたい。

(再生資源回収業)

* 中小企業等への「弱者に対する政策」は今や主張することが憚れる世の中になってしまった。協同組合の存在が岐路に立たされている。

(貨物自動車運送業)

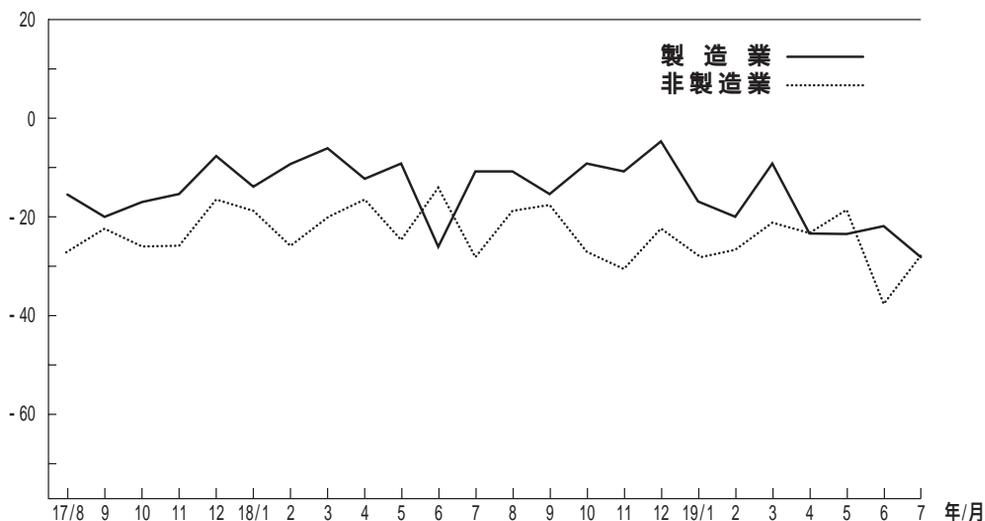
7月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

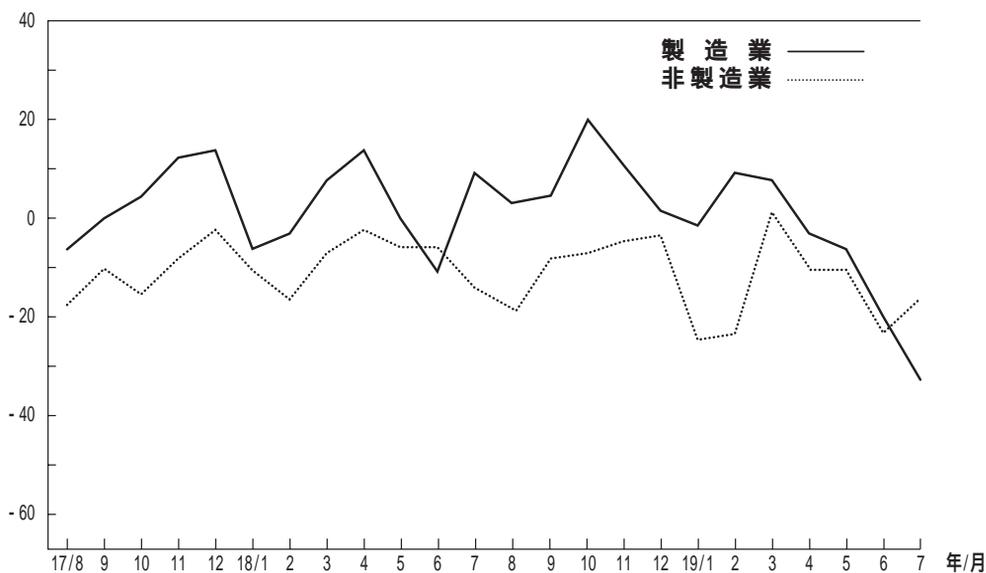
業界の景況DIの変化（H17.8～H19.7）

（前年同月比）



売上高DIの変化（H17.8～H19.7）

（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。